

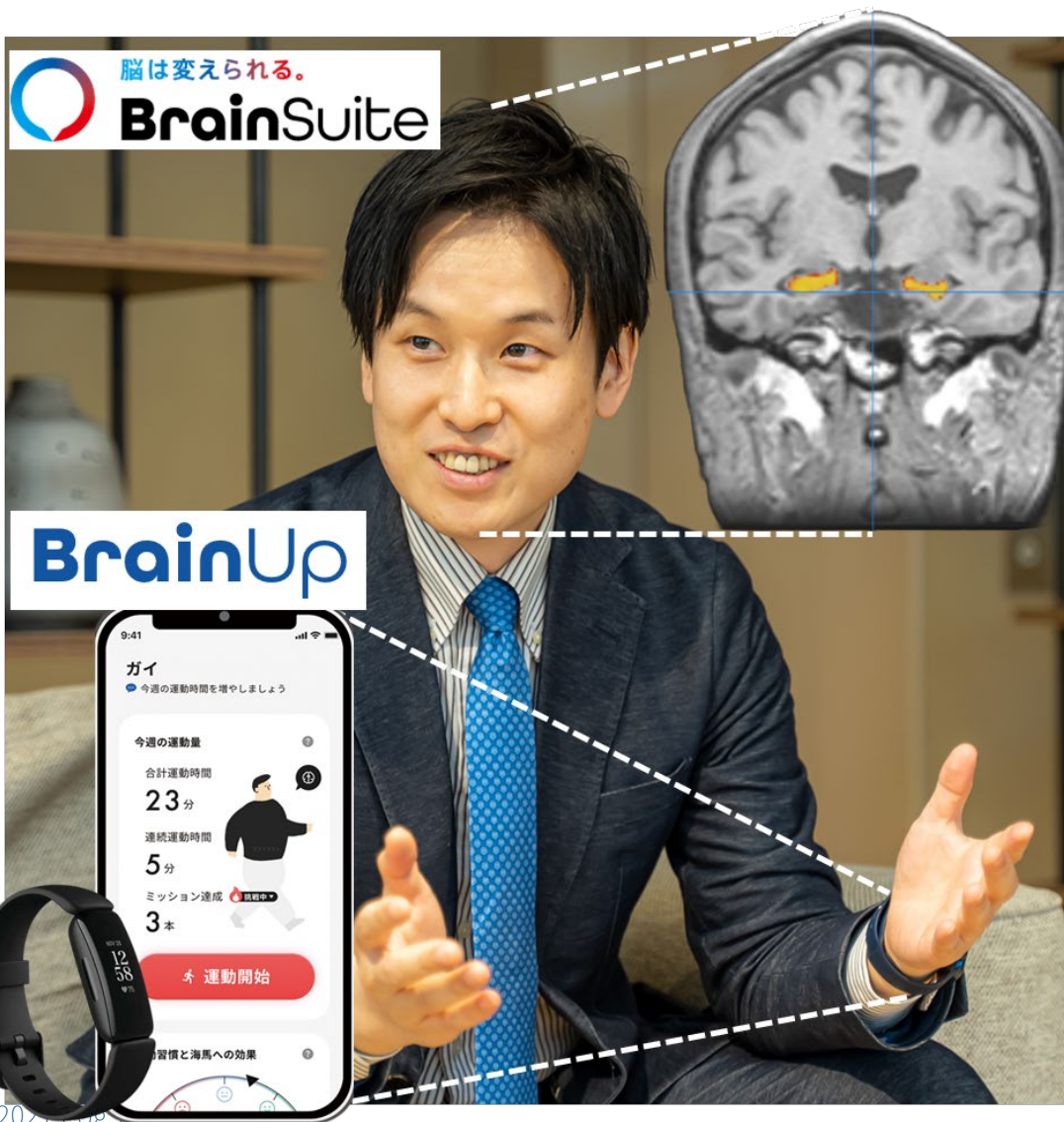
大学発スタートアップの香港進出

脳から、社会を変えていく。

CogSma



東北大学



会社名

康希亞洲有限公司
(CogSmart Asia Limited)

役職・氏名

執行董事 兼 行政總裁
(Executive Director & CEO)

樋口 彰 (Akira HIGUCHI)

株式会社CogSmart (コグスマート) 会社概要

基本情報

大学発SU	東北大学 加齢医学研究所発 健康長寿 テック・スタートアップ
子会社	CogSmart Asia Limited (香港)
主な 受賞歴 (2025)	● AMED「介護テクノロジー社会実装事業」 ● 米国“Biomedical Pitch Competition 2025”にて“Innovation Award”受賞

代表取締役



CEO 樋口 彰

弁護士(日本・英国)
東北大学 分野研究員

企業法務 法律事務所にて約10年執務後、ヘルステック企業の幹部等を経て創業。官僚として政策立案や英・豪・香港での執務経験あり

※ 2019-2021 香港法律事務所執務

日本認知症学会 若手の会
「最優秀プレゼンテーション」受賞(2025)

事業内容・方向性

“海馬育成”での認知症・介護予防
(=健康長寿)の“産業化”



検診サービス (見える化) 海馬AI解析
「BrainSuite(ブレインスイート)」

介入サービス (改善) 海馬育成化アプリ
「BrainUp(ブレインアップ)」



CSO 瀧 靖之

東北大学 教授
医師・医学博士

脳医学分野での日本を代表するKOL。研究室では50名余の研究員を率い、各分野で脳医学分野の発展に貢献

1. 研究: 大規模脳画像データベースに基づいた脳研究
2. 臨床: 東北大学病院 加齢老年病科
3. 産学連携: 20超企業

香港での歩み

2021年に拠点設置。香港の支援制度を使いながら、少しずつ実績を積み重ね
※ 研究開発(特に、臨床試験)への工数が想定以上に。2025年までは、香港は主に研究開発まで。

2021年7月

香港サイエンスパーク(HKSTP)の育成プログラム
Incu Bioに採択(4年間)

2023年

Best Start-up Award 受賞
世界の日本人商工会議所ネットワークから、
優秀なスタートアップ3社の1社として受賞

2025年6月

米国バイオメディカル・スタートアップピッチ大会(BCIC)
Innovation Award 受賞 ※HKSTPメンバーとして出場

2025年7月

HKSTP Incu Bio 卒業
※ 卒業は、香港スタートアップでも難関だったとのこと

2025年7月

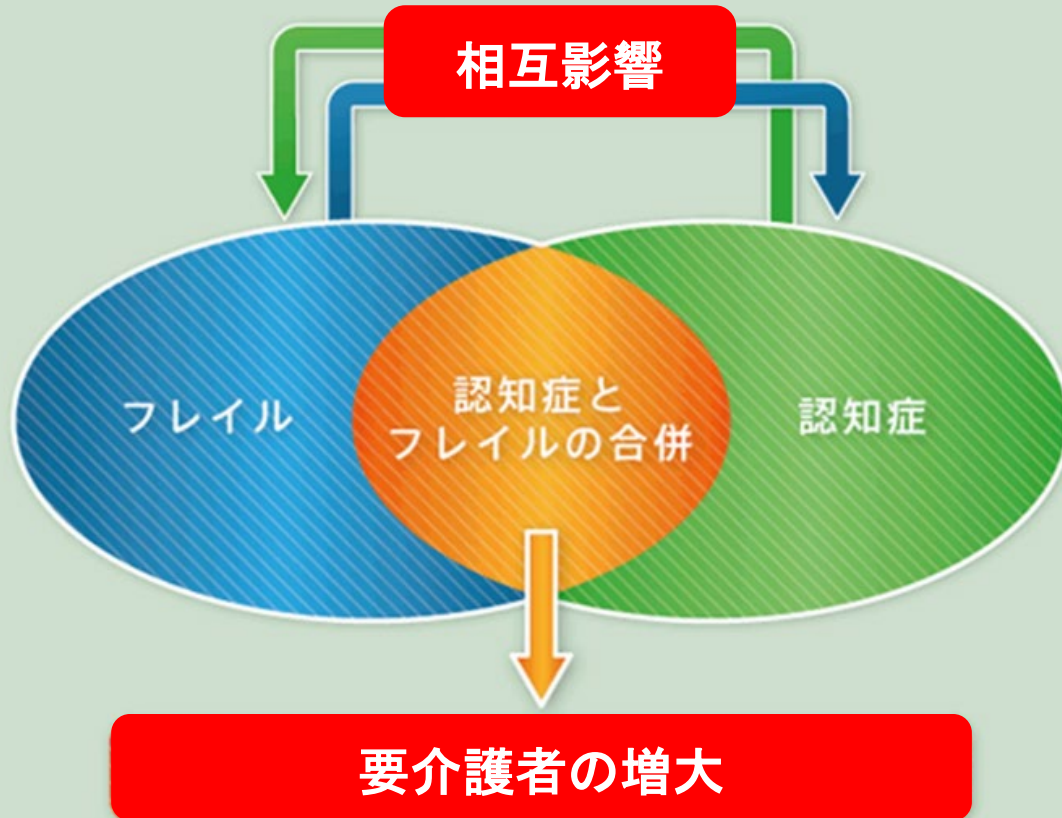
厚生労働省・経済産業省系 研究開発法人 AMED
「介護テクノロジー海外展開事業」採択

研究開発
＋
事業化は
日本メイン

香港での
事業化へ

認知症課題とCogSmartのソリューション

超高齢社会のペイン: 認知症+フレイル(虚弱)→ 要介護 → 社会的コストの増大



認知症関連コストの増大

14.5兆円
(2014)

22.8兆円
(2050)

医療費

1.9兆円

2.8兆円

介護費

6.4兆円

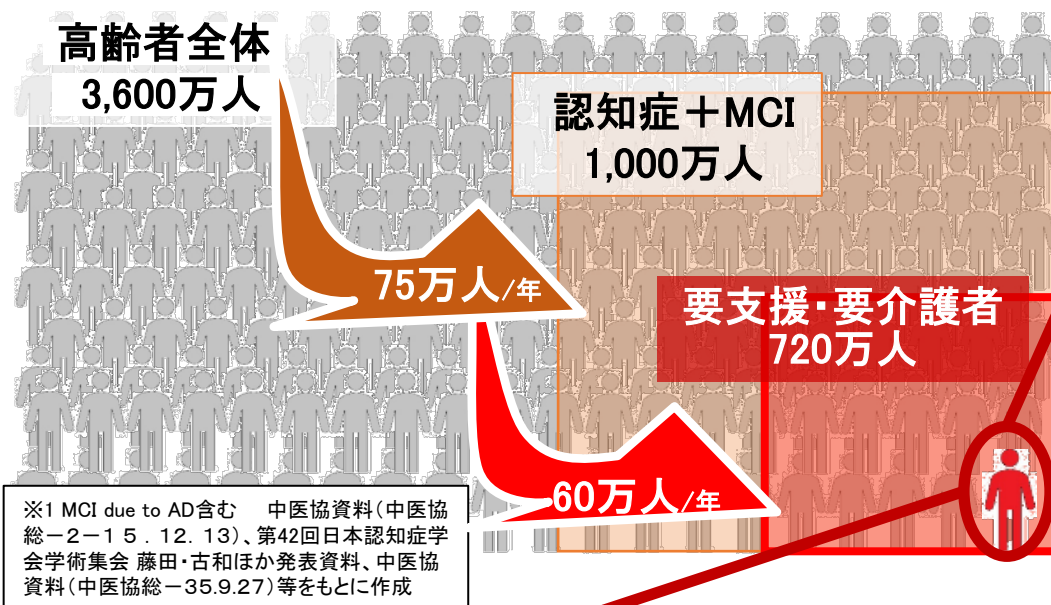
10.5兆円

家族負担

6.2兆円

9.5兆円

認知症患者・要介護者が急増する中での治療薬の限界



フレイルでの限界

多剤併用(ポリファーマシー)の問題などから、**薬物療法は非推奨**

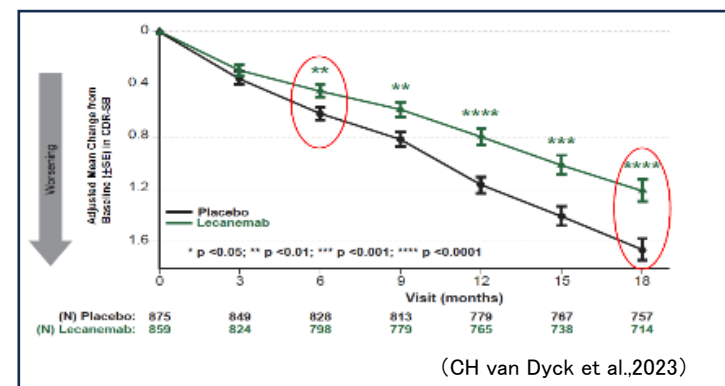
認知症治療薬の限界

① 適用対象はごく一部

認知症患者650万人の0.49%である **3.2万人** のみ

② 効果は抑制効果のみ(根治薬ではない)

27%の進行抑制効果に止まり、患者数は減少せず

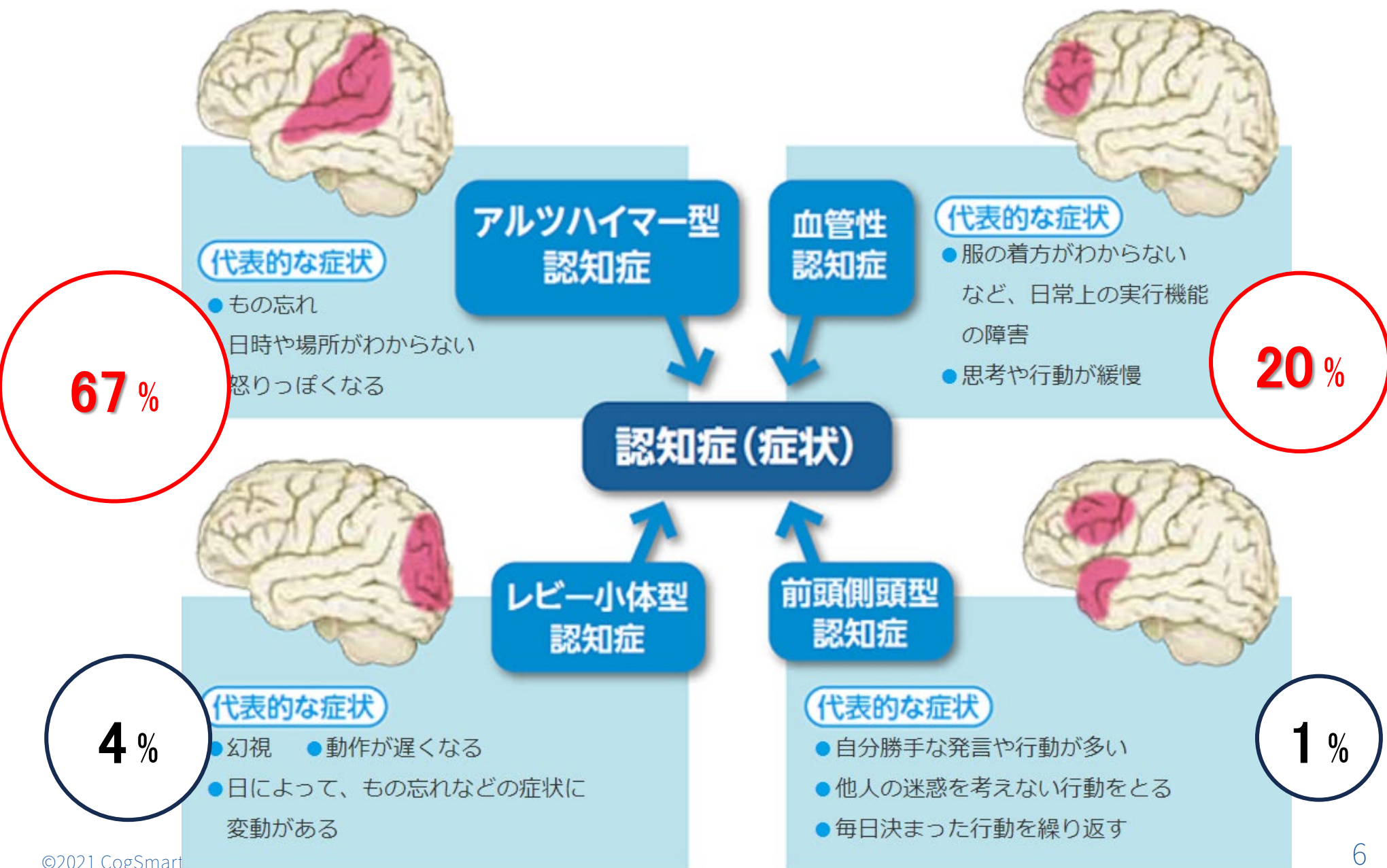


③ 高額な薬剤費・検査費

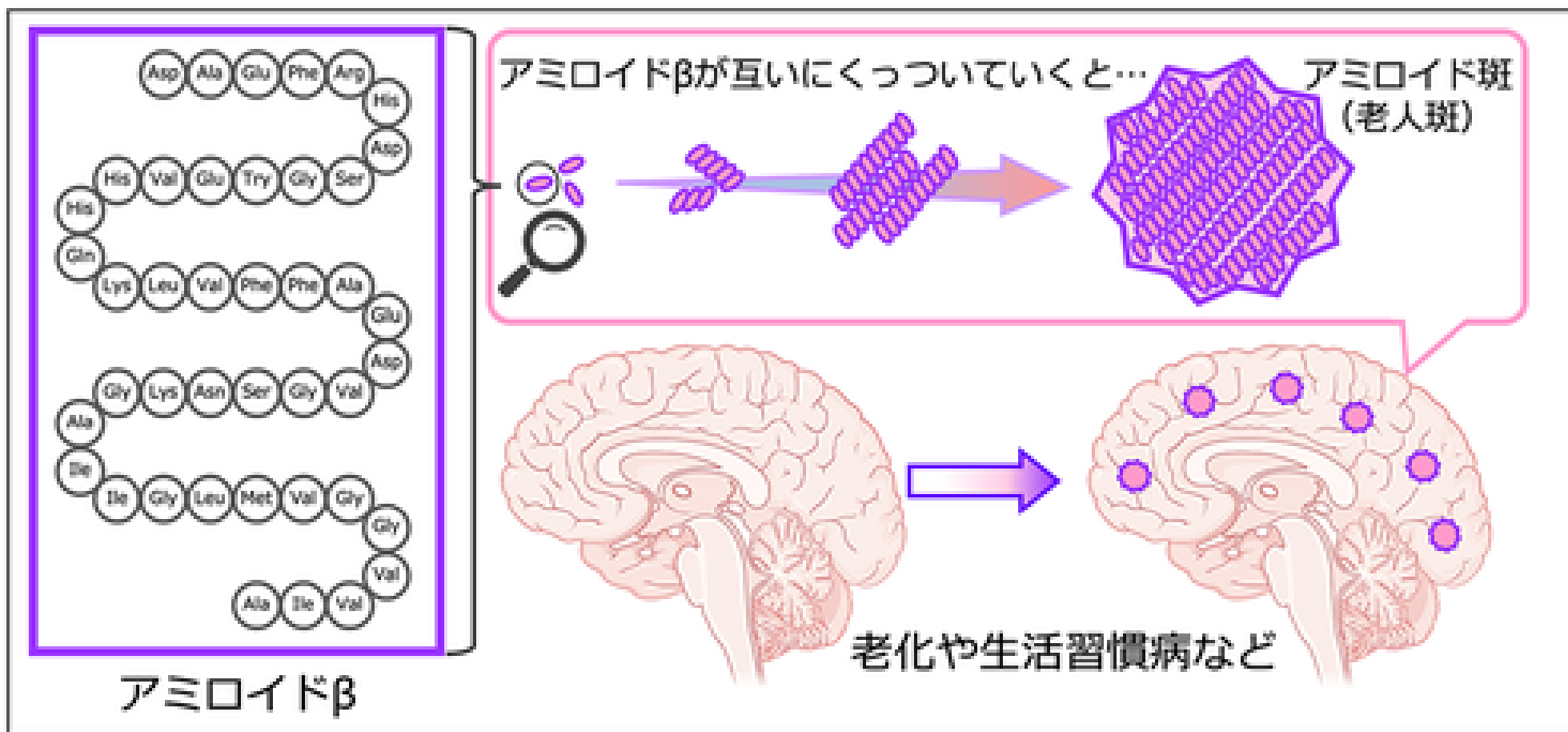
薬剤費年間250万円、**多額の検査費**(PET・MRI)等

カギは、早期からの運動・身体活動等の生活習慣改善

認知症とは？



アミロイドβ 仮説



国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター(<https://www.ncgg.go.jp/ri/labo/01.html>)

より引用

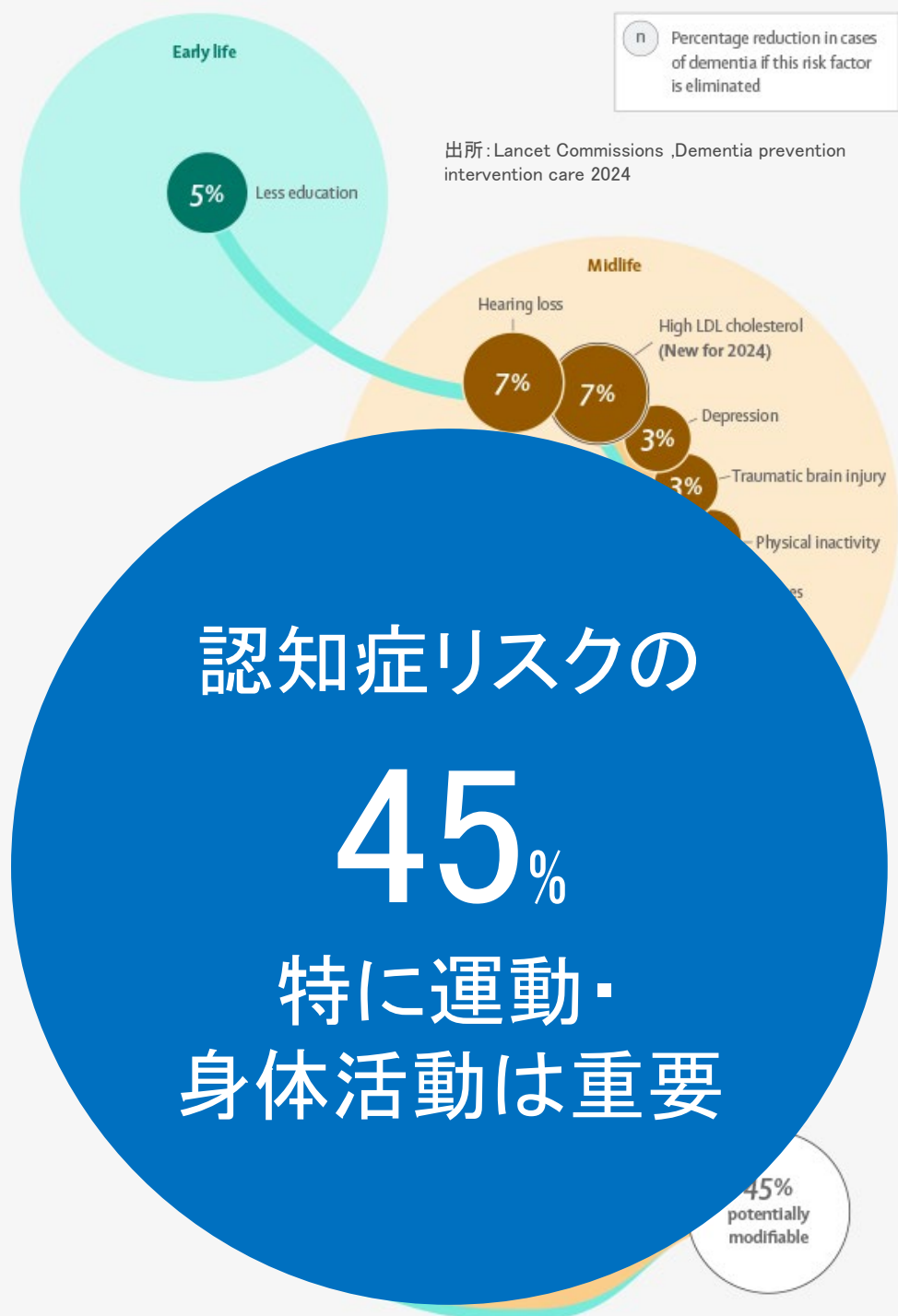
生活習慣が認知症リスクに影響

中年期

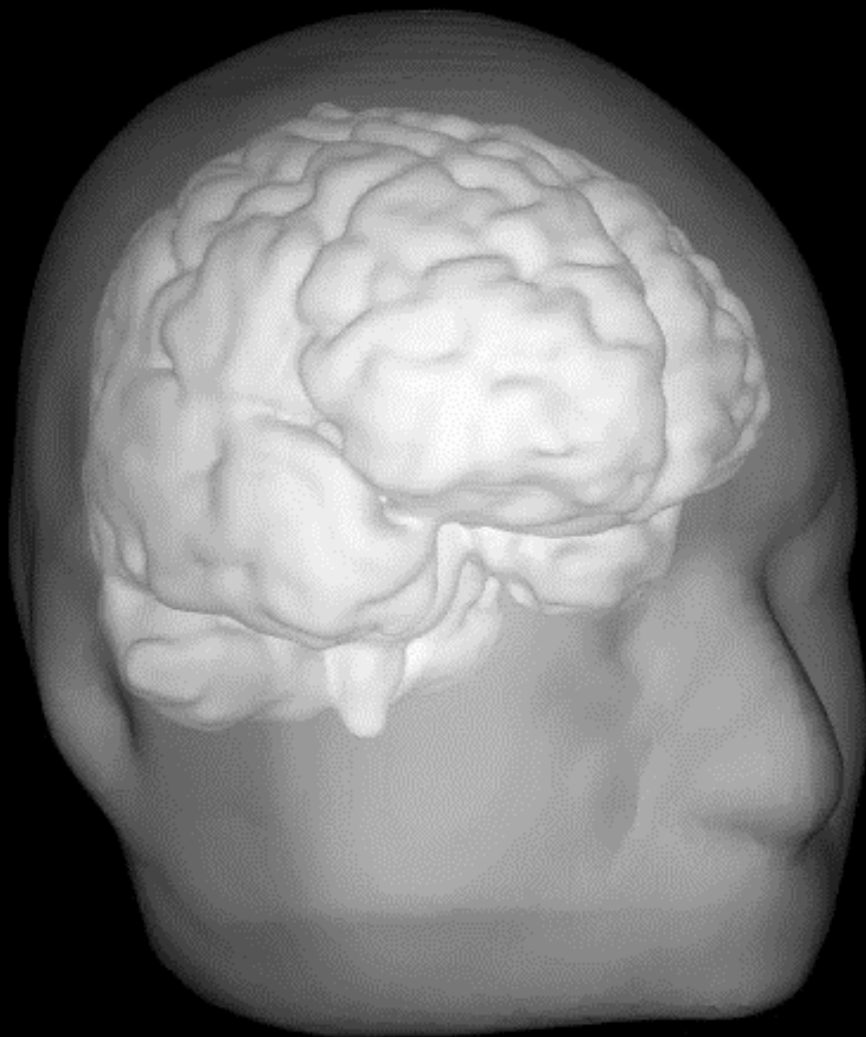
- ・難聴
- ・高LDLコレステロール
- ・抑うつ
- ・運動不足
- ・喫煙
- ・肥満
- ・外傷性脳損傷
- ・糖尿病
- ・高血圧
- ・過度の飲酒

高年期

- ・社会的孤立
- ・大気汚染
- ・視力障害



海馬(かいば)への着目

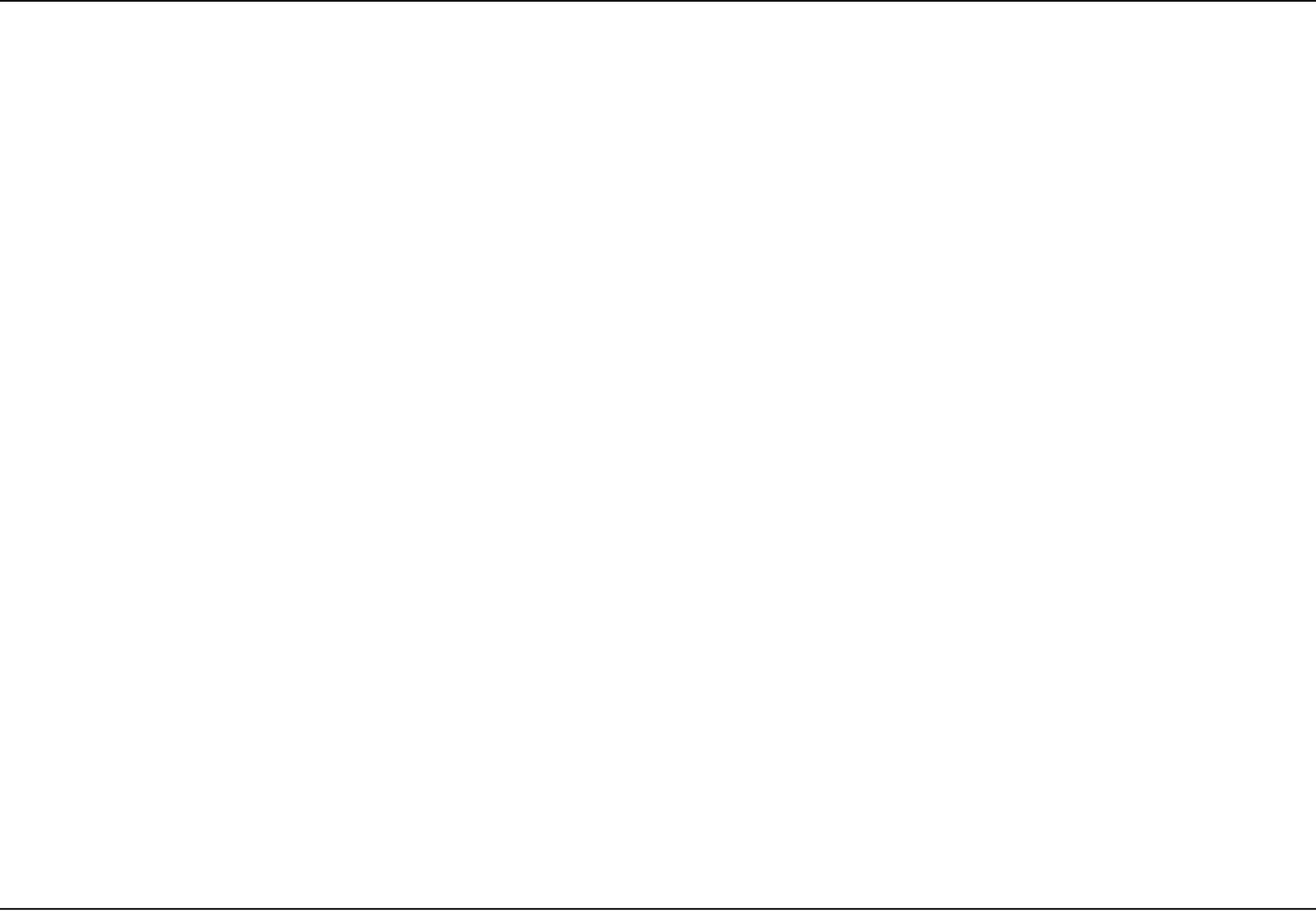


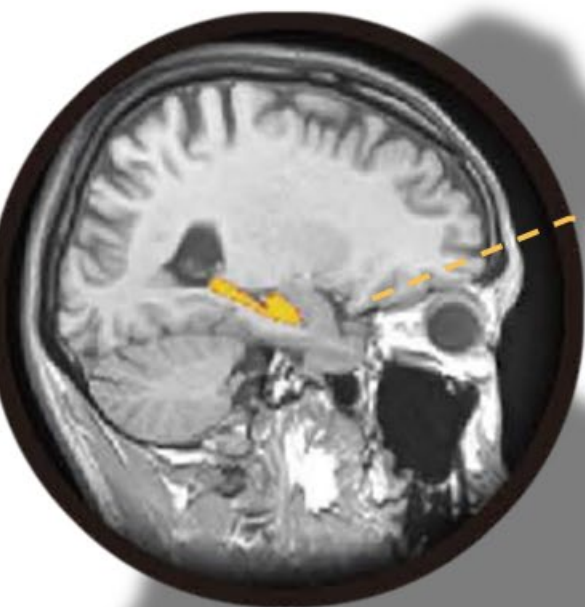
保護因子

- 運動・身体活動
- 適度な睡眠
- バランス良い食生活

危険因子

- 肥満
- 睡眠不足
- ストレス
- 飲酒
- 喫煙





Akira Higuchi

樋口 彰 (43)

代表取締役 社長

弁護士 (日本法・英国法)

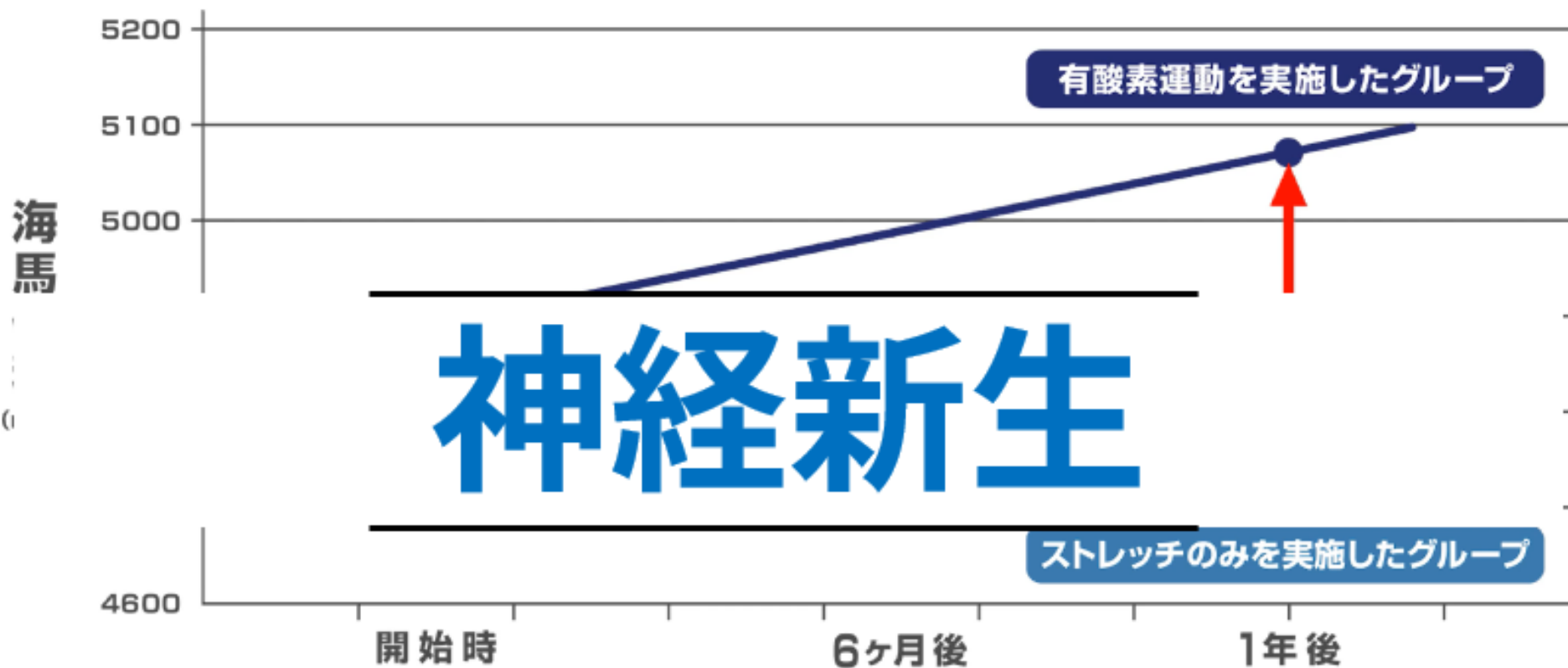
オックスフォード大学
(理学修士)

→ 東北大学 加齢医学研究所
分野研究員

海馬体積 **6,650** mm³

海馬ランキング ?? 位 / 100人 中

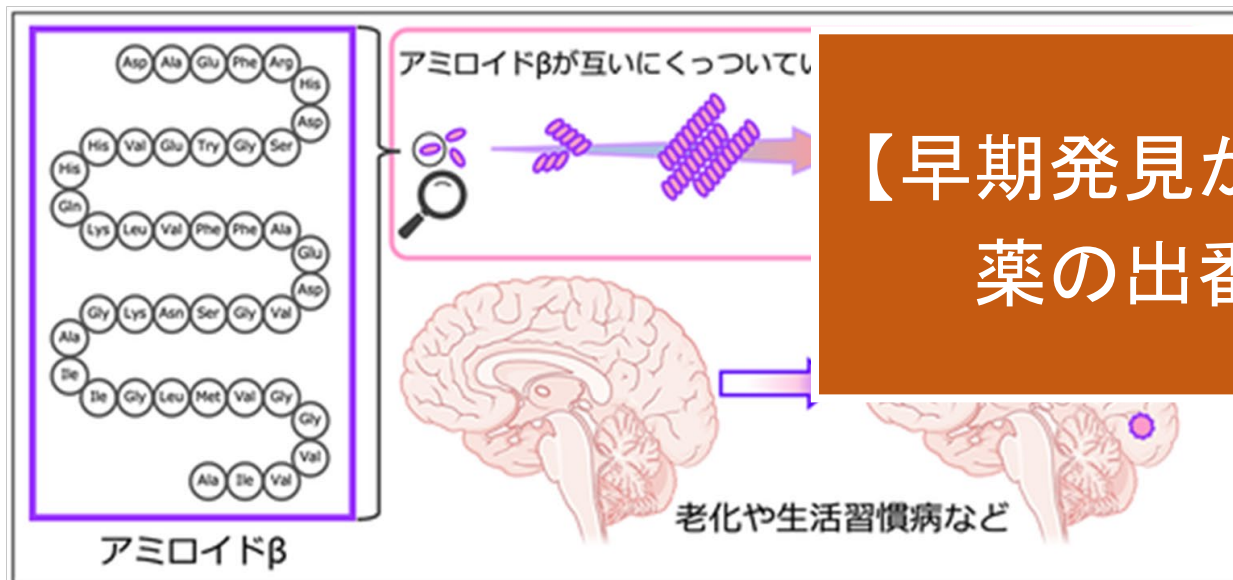
運動介入による海馬体積の増加 左海馬



出典：K Erickson, et al., PNAS, 2011. より引用改変

病理

アミロイドβ仮説



【早期発見が重要】
薬の出番！

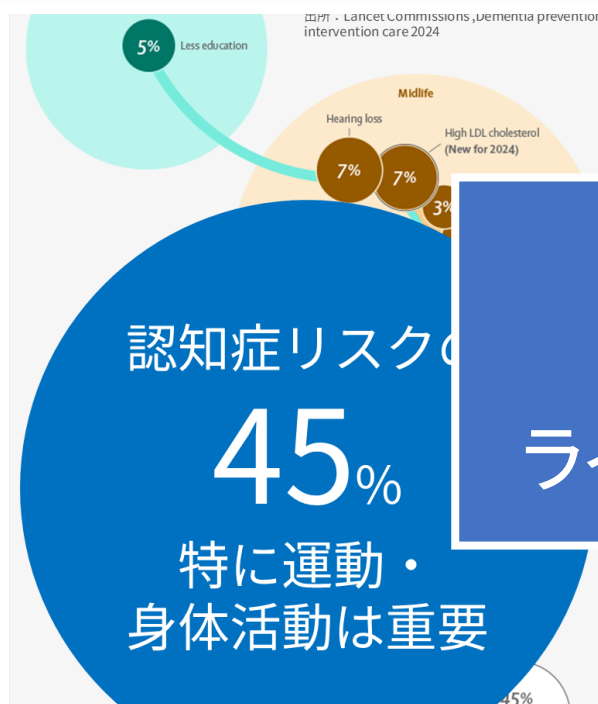
生理

中年期

- ・ 難聴
- ・ 高LDLコレステロール
- ・ 抑うつ
- ・ 運動不足
- ・ 喫煙
- ・ 肥満
- ・ 外傷性脳損傷
- ・ 糖尿病
- ・ 高血圧
- ・ 過度の飲酒

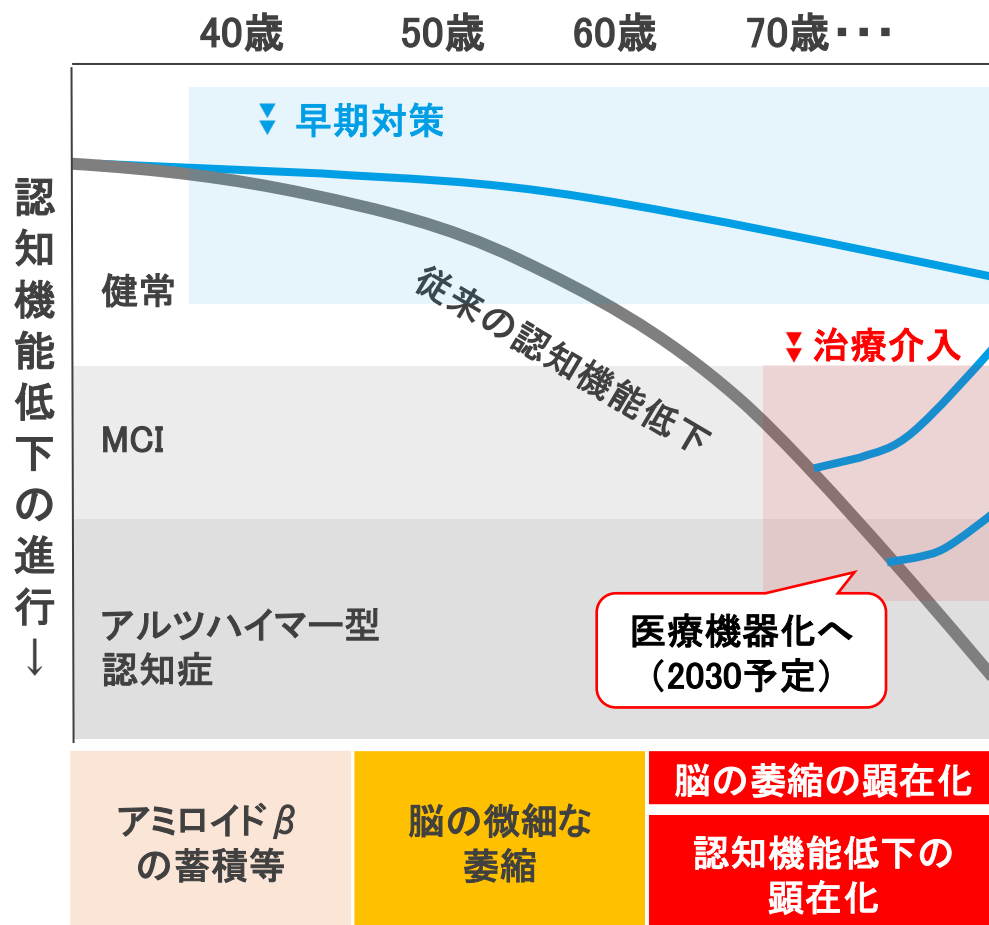
高年期

- ・ 社会的孤立
- ・ 大気汚染
- ・ 視力障害



「海馬」を
意識した
ライフスタイル

【ソリューション】「海馬の育成」を通じた“見える化” × “改善”



BrainSuite
ブレインスイート

150
施設で
採用



脳MRIのAI解析による
海馬体積測定検査
価格: 15,000円(税抜)～

「見える化」による
行動変容の契機に



BrainUp
ブレインアップ

認知機能・身体機能
改善アプリ

実効的な「海馬の育成」へ

2022年4月15日解析結果 ID: XXXXXXXXXXXX 02

あなたの海馬

オックスフォード大学等の研究チーム
(2025年)

10 の著名な海馬計測ソフトのうち
“あらゆるMRIデータセットで
各指標で高い性能”

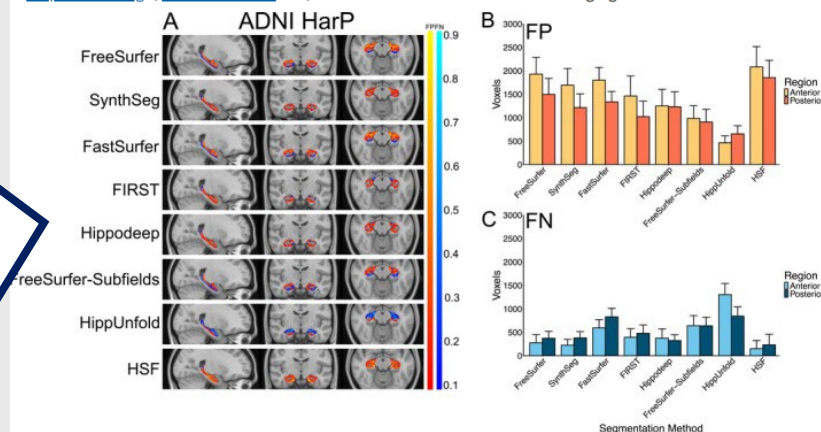
世界トップクラスの高精度・高速度AI

HUMAN BRAIN MAPPING

▶ Hum Brain Mapp. 2025 Mar 27;46(5):e70200. doi: [10.1002/hbm.70200](https://doi.org/10.1002/hbm.70200)

Evaluating Traditional, Deep Learning and Subfield Methods for Automatically Segmenting the Hippocampus From MRI

[Sabrina Sghirripa](#)^{1,2,✉}, [Gaurav Bhalerao](#)^{3,4}, [Ludovica Griffanti](#)^{3,4}, [Grace Gillis](#)⁴, [Clare Mackay](#)⁴, [Natalie Voets](#)³, [Stephanie Wong](#)⁵, [Mark Jenkinson](#)^{1,2,3}; For the Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative



クライアント **150** 医療機関 ↗

BrainUp



“海馬” 育成アプリの特徴

⇔ 従来の健康アプリ

1 「中強度」運動の可視化・自動記録

⇔ 歩数の自動記録／
アプリへの手動記録

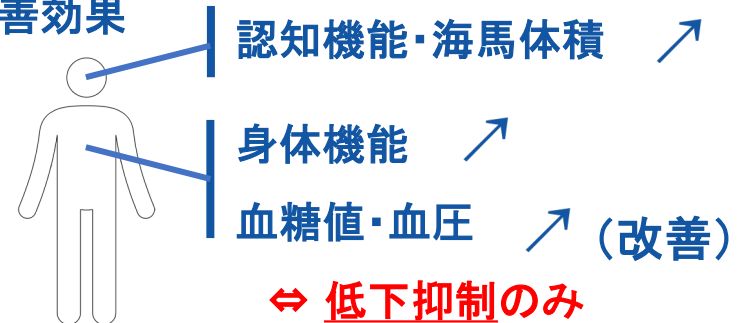
2

コンセプト「好きな運動・活動を
好きな時間に 好きな場所で」

⇔ 散歩・ジョギング

3

改善効果



単独利用も可

効果測定



1

「海馬の育成」による運動継続効果（東京都民での検証 比較）

効果のある中強度の運動（60分～/週）

40-74歳 71.7%（8か月間）

75-89歳 84.6%（6か月間）

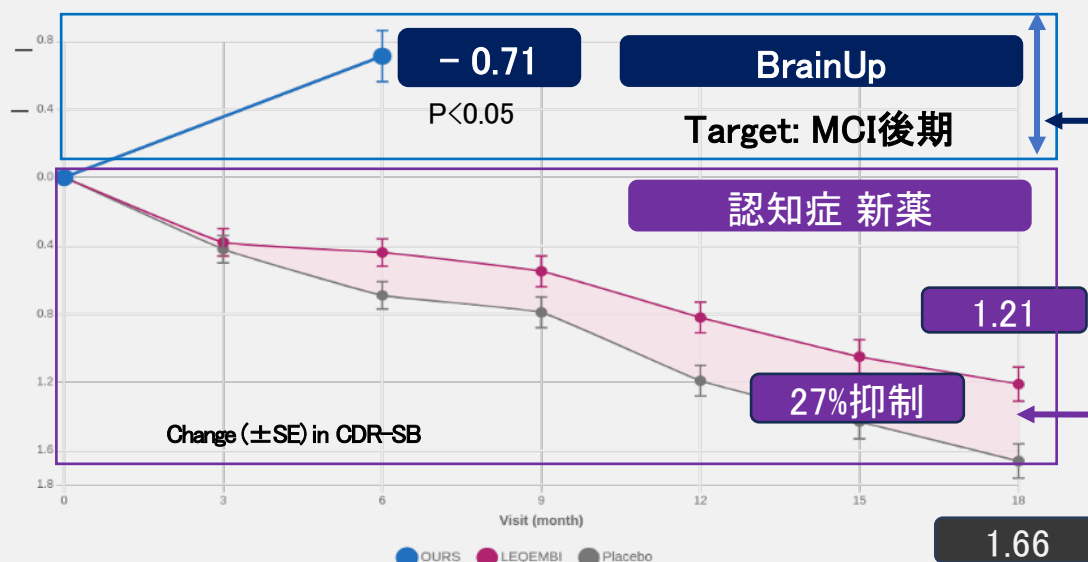
VS

【他社】アプリ投稿

高齢者 71%
（2か月間）

2

エビデンス創出 ⇒ MCI + 身体機能・生活習慣病スコア 改善



リバージョン
（改善）

6か月のみ
副作用なし

新薬では
抑制効果のみ
副作用あり

メディア・受賞歴

▼ 日本経済新聞 2024年5月22日朝刊

認知症、アプリで進行抑える

「認知症を抑制するAI（Brainsee）」。1月米食品医薬品局（FDA）から医療機器（「経頭蓋刺激（MCS）」）と称する認知症の予防・治療に有効な効果があることが、5年以内に臨床試験で認められ、現在、米国で承認待ちの段階にある。認知機能検査を受けることなく、脳画像とテスト結果に基づいて、認知症のリスクを評価する。費用が高額なほか、高齢者の体にも負担がかかる。パティ・デカマラは最高経営責任者（CEO）で、MCSの開発者である。MCSは、脳に電流を流すことで、認知症の進行を抑える。MCSの開発は、個人差がある。デカマラのAIで定量的に検査することで、薬の効果も確認しやすい。デカマラは米サンフランシスコに拠点を置く。認知症のリスクを評価する。費用が高額なほか、高齢者の体にも負担がかかる。パティ・デカマラは最高経営責任者（CEO）で、MCSの開発者である。MCSは、脳に電流を流すことで、認知症の進行を抑える。MCSの開発は、個人差がある。デカマラのAIで定量的に検査することで、薬の効果も確認しやすい。デカマラは米サンフランシスコに拠点を置く。

スタートアップ、AIで予防・早期発見

認知症のリスクを評価する。費用が高額なほか、高齢者の体にも負担がかかる。パティ・デカマラは最高経営責任者（CEO）で、MCSの開発者である。MCSは、脳に電流を流すことで、認知症の進行を抑える。MCSの開発は、個人差がある。デカマラのAIで定量的に検査することで、薬の効果も確認しやすい。デカマラは米サンフランシスコに拠点を置く。

認知症のリスクを評価する。費用が高額なほか、高齢者の体にも負担がかかる。パティ・デカマラは最高経営責任者（CEO）で、MCSの開発者である。MCSは、脳に電流を流すことで、認知症の進行を抑える。MCSの開発は、個人差がある。デカマラのAIで定量的に検査することで、薬の効果も確認しやすい。デカマラは米サンフランシスコに拠点を置く。

認知症のリスクを評価する。費用が高額なほか、高齢者の体にも負担がかかる。パティ・デカマラは最高経営責任者（CEO）で、MCSの開発者である。MCSは、脳に電流を流すことで、認知症の進行を抑える。MCSの開発は、個人差がある。デカマラのAIで定量的に検査することで、薬の効果も確認しやすい。デカマラは米サンフランシスコに拠点を置く。

認知症のリスクを評価する。費用が高額なほか、高齢者の体にも負担がかかる。パティ・デカマラは最高経営責任者（CEO）で、MCSの開発者である。MCSは、脳に電流を流すことで、認知症の進行を抑える。MCSの開発は、個人差がある。デカマラのAIで定量的に検査することで、薬の効果も確認しやすい。デカマラは米サンフランシスコに拠点を置く。

スマホ使い認知症予防

CogSmart
(東京・中央)
脳ドック用ソフト開発。
東北大発

・認知機能の改善効果のある運動や活動を管理するアプリを開発
(24年中に一般向けに提供開始)

海馬(記憶をつかさどる脳の部位)の状態などを同年代の平均と比較

MRIから脳の状態を推測(フリップスと連携)

認知症のリスクを判定

自由診療の範囲で検査

アプリとMRIを組み合わせた定期検診サービス(月額数千円)で提供

脳の状態をみるサービスが出てきた

NTTコミュニケーションズ

脳の状態を電話で確認できる

日本テクトシステムズ(DeNA子会社)

スマホで認知機能の変化を測定

▼ 米国バイオメディカル・スタートアップ決勝戦
17社の1社としてCogSmartが選出(2025年6月)
「世界に通用する技術」として「Innovation Award」を受賞

2025 BIOMEDICAL PITCH COMPETITION

From Pre-Seed to Pre-IPO Startups

- BIOTECHNOLOGY
- PHARMACEUTICALS
- MEDICAL DIAGNOSIS
- MEDICAL DEVICE
- AI+DIGITAL HEALTH
- AESTHETIC MEDICINE

その他、医療・健康からビジネス、さらにはエンタメまで幅広い分野で新聞・雑誌掲載やテレビ放送あり

※ 他の16社は、米国9社、中国7社(うち香港2社)審査員は、米国著名VCのほか、製薬企業大手ロシュ、エーザイなど

国・都道府県・自治体での評価

1) 国から「優れたディープテック」として評価



※経済産業省・厚生労働省・文部科学省傘下の
国が認める医学・テクノロジー企業に対する支援機関

2) 都県から「地域課題を解決するスタートアップ」 として評価・支援

東京都



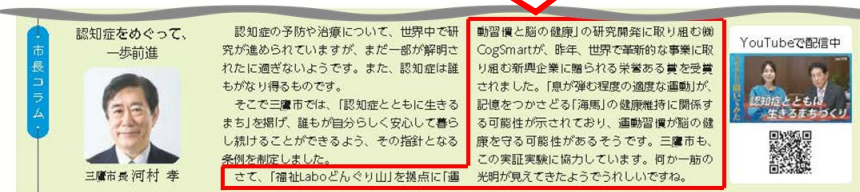
神奈川県



3) 自治体で利用開始／三鷹市では市長メッセージ



CogSmartに関して、
表紙の市長コラムで言及



東京都事業への新規採択(2026.6)



都庁総合トップ > お知らせ > 報道発表 > 2026年 > 6月
> スタートアップ社会実装促進事業 第2期募集開始 & 第1期採択決定

報道発表資料: 2026年6月25日

産業労働局

スタートアップ社会実装促進事業「PoC Ground Tokyo」 令和8年度第2期募集開始 & 第1期10件採択決定！



株式会社CogSmart



都の支援・お墨付きを得ながら
「**楽しみながら、健康活動**」の事業連携を推進



「楽しみながら、高齢者の海馬も身体も健康に」を実現するアプリシステムの社会実装
カラオケ等の娯楽・趣味を先行ユースケースとした新しい介護予防事業の検証

香港での事業活動

【再掲】香港での歩み

2021年に拠点設置。香港の支援制度を使いながら、少しずつ実績を積み重ね
※ 研究開発(特に、臨床試験)への工数が想定以上に。2025年までは、香港は主に研究開発まで。

2021年7月

香港サイエンスパーク(HKSTP)の育成プログラム
Incu Bioに採択(4年間)

2023年

Best Start-up Award 受賞
世界の日本人商工会議所ネットワークから、
優秀なスタートアップ3社の1社として受賞

2025年6月

米国バイオメディカル・スタートアップピッチ大会(BCIC)
Innovation Award 受賞 ※HKSTPメンバーとして出場

2025年7月

HKSTP Incu Bio 卒業
※ 卒業は、香港スタートアップでも難関だったとのこと

2025年7月

厚生労働省・経済産業省系 研究開発法人 AMED
「介護テクノロジー海外展開事業」採択

研究開発
＋
事業化は
日本メイン

香港での
事業化へ

(1) 2021年～2025年：サイエンスパーク入居からスタート

日本での研究開発・事業と並行して、香港でのネットワーク構築

2021年 香港サイエンスパークに入居



パーク内のオフィスと、入居企業一覧に並んだ社名

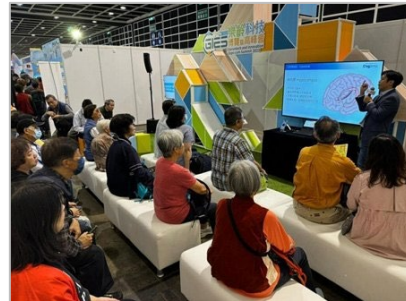
展示会・セミナー等での発信



日本企業
パビリオン



アジア・グローバル
ヘルス・サミット



会場での
市民向けセミナー

©2021 CogSmart Co., Ltd.

2023年 香港フォーラムで受賞



第24回 香港フォーラムでの授賞式 (Best Start-up Award)



日本・香港
イノベーション＆
テクノロジー・フォーラム
に登壇 (2025.10)

(2) 2025年～2026年：香港への商業化準備

香港ネットワーク構築が評価され、AMED事業に採択。香港での社会実装 → 商業化の準備へ

2025年10月 研究開発法人 AMED「介護テクノロジー海外展開事業」に採択 ～2026年3月

2025年7月～

利用者・家族・介護職への
UXリサーチ



2025年9～12月

香港版アプリの
ローカライズ開発



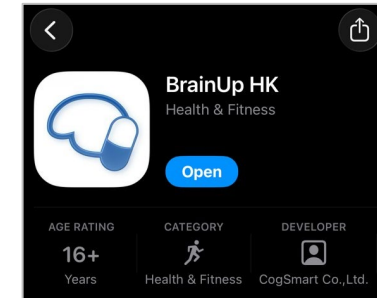
2026年1～3月

高齢者施設での
PoC 実施と結果分析

2025年11月 GIES 2025 に出展



2026年1月 香港版を公開



BrainUp 香港版を App Store で公開

アジア最大級の介護テクノロジー展示会。商工会議所の日本企業パビリオンに出展

脳から、社会を変えていく。



東北大学

介護・認知症対策アプリの海外展開に関する研究開発（香港・中国広東省ほか）

Research and development for the international expansion of CogSmart's long-term care and dementia prevention application, including Hong Kong and Guangdong Province.

樋口 彰

株式会社CogSmart

代表取締役 CEO

ライフサイエンス事業部 研究主任

Akira Higuchi

CogSmart Co., Ltd.

Representative Director & Chief Executive Officer (CEO)

Head of Research, Life Sciences Division

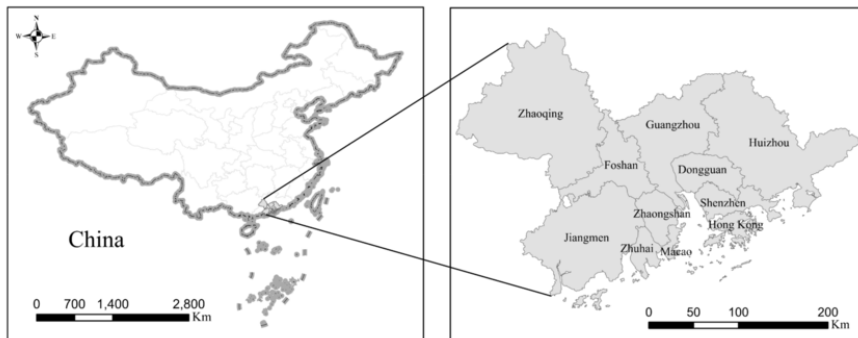
1. 対象国の介護制度・ニーズ

1. Care Systems and Needs in Target Countries

- ✓ 中国市場での展開にあたり、大湾区地域、特に香港（人口：750万人）では認知症予防の強いニーズあり。
- ✓ In expanding into the Chinese market, there is strong demand for dementia prevention in the Greater Bay Area (the “GBA”) region, particularly in Hong Kong (population: 7.5 million).

1) 中国大湾区の概要

1) Overview of the GBA



He, X et al., *Delineation of Urban Agglomeration Boundary Based on Multisource Big Data Fusion — A Case Study of Guangdong–Hong Kong–Macao Greater Bay Area (GBA)*, Remote Sens. 2021 より引用改変

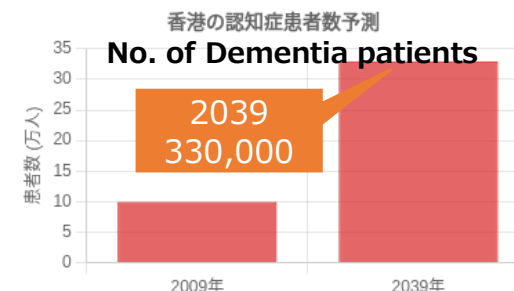
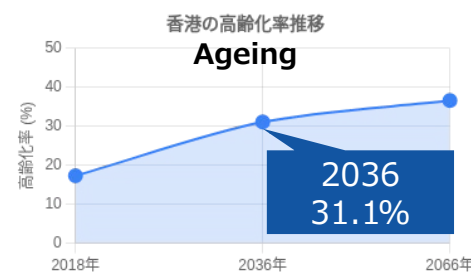
3) 介護現場における課題

3) Challenges in the Care Sector

1. 在宅介護中心： 儒教文化「家族で面倒を」
2. 介護人材の深刻な不足： 一人っ子政策
3. 認知症への社会的偏見： 診断回避傾向
4. フレイル・認知症の相互悪化： 予防連携の必要性
5. 効果的予防施策の未確立： 特に在宅環境での不足

2) 香港における高齢化・認知症の推移

2) Trends in Ageing and Dementia in HK



認知症の社会的コストの増加
(2036年)

2,237億円 → 5,831億円

Increase in the social
cost of dementia
(2036)

¥223.7 bn → ¥583.1 bn

2. テクノロジーの概要 : (1) BrainUpアプリ (動画)
2. Technology Overview: (1) BrainUp App (video)



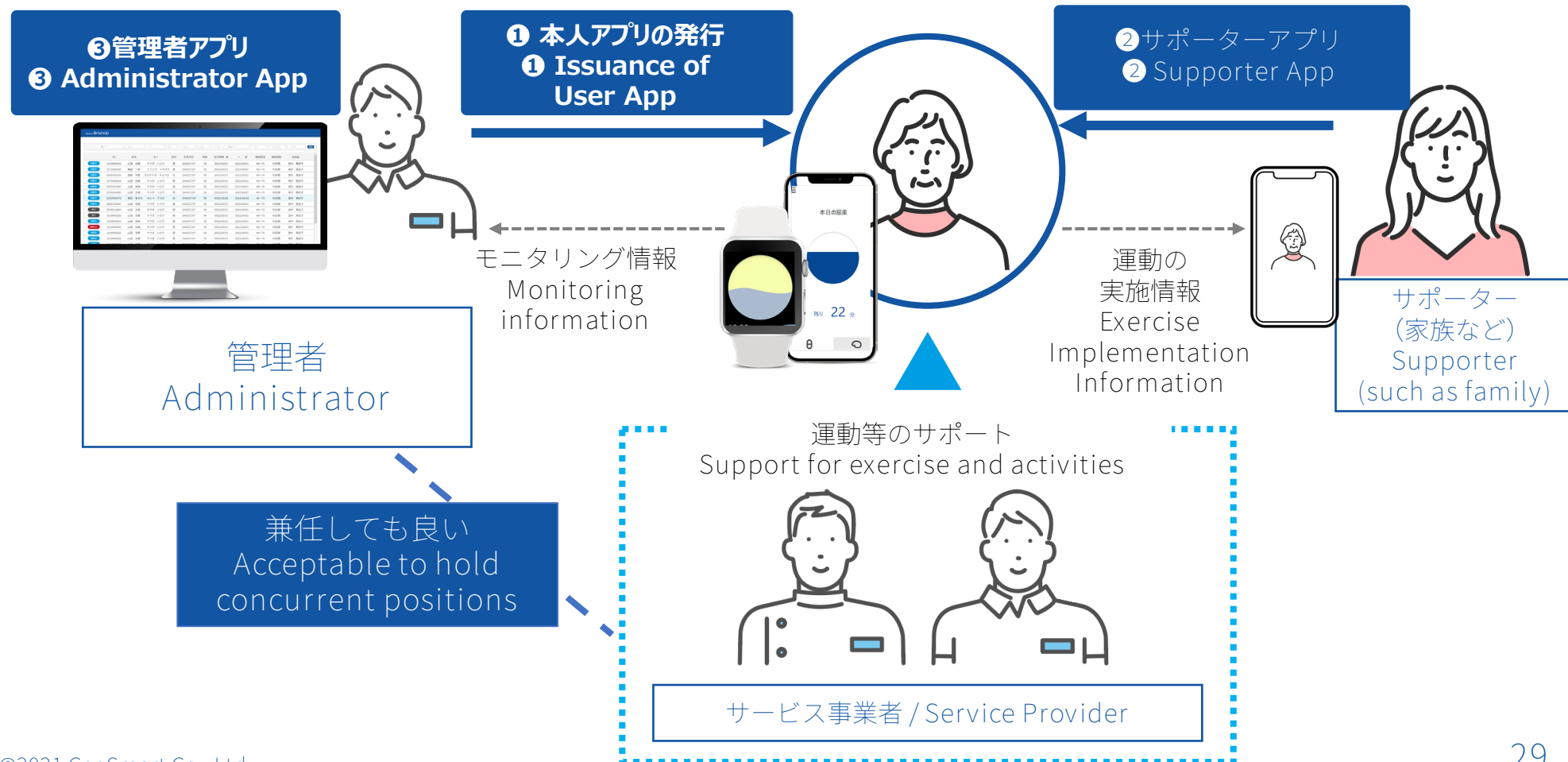
(2) 製品コンセプト・構成図

(2) Product Concept and Configuration Diagram

コンセプト：認知症・介護予防に有効な「好きな運動・活動を、好きな場所で、好きな時間に」実施

Concept : 'Your preferred exercise or activities, in a preferred location, at a preferred time'
to be implemented as an effective measure for dementia and care prevention

▼ 3つのアプリからなるシステム / System comprising three applications



3. AMED支援を受けて取り組んだ内容

3. Activities undertaken with support from AMED

- ✓ 高齢者施設での実証事業（PoC）の準備を軸に、公的機関、NPOや企業からのヒアリングや交渉
- ✓ Consultations and negotiations with public bodies, NPOs and companies, centred on preparations for a proof-of-concept (PoC) project in elderly care facilities

2025. July

Sep. – Dec.

2026. Jan.-Mar.

PoC準備/
Preparation

1) ソーシャルワーカーや利用者・家族へのUXリサーチ

1) UX research for social workers, service users and their families



2) アプリのローカライズ開発
2) App localisation
development

3) PoC実施

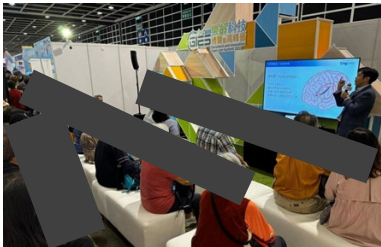
3) PoC
implementation

↓
4) 結果分析

4) Results analysis

セミナー・シンポジウムを介した交渉（市民向け、企業向け、財界向け）
Seminars (for citizens, businesses, and the business community)

展示会展
Exhibition

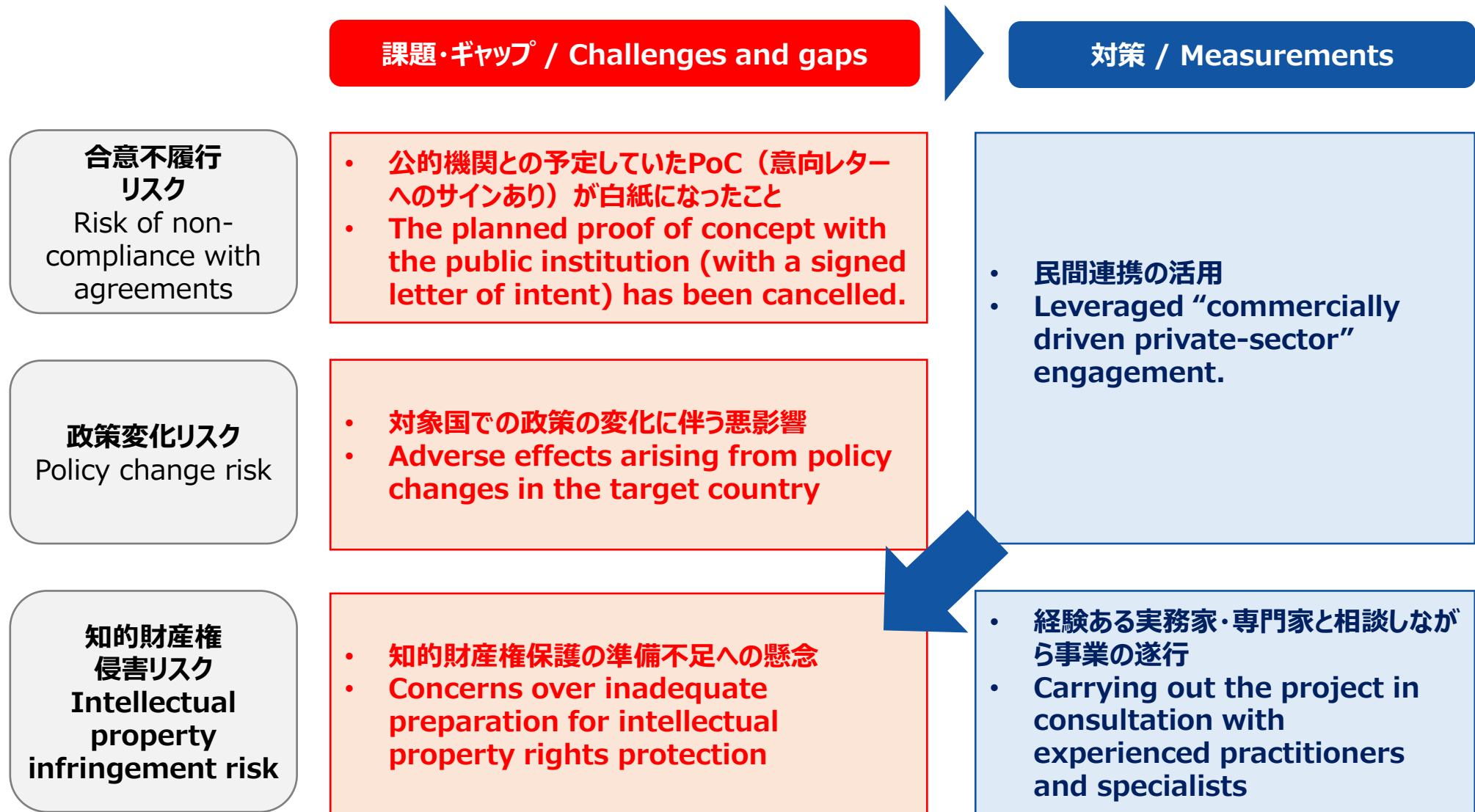


ヒアリング・
交渉
Hearing
Negotiation

ヒアリングや交渉を踏まえ、(1) ニーズ把握、(2) **ビジネスモデル**・販路確保、(3) マーケティング、(4) 価格設定等を分析
Based on consultations and negotiations, analyse (1) identifying needs, (2) securing **the applicable business models** with distribution channels, (3) marketing, and (4) pricing, etc.

4. 海外展開に当たっての課題・想定とのギャップ・苦慮したこと

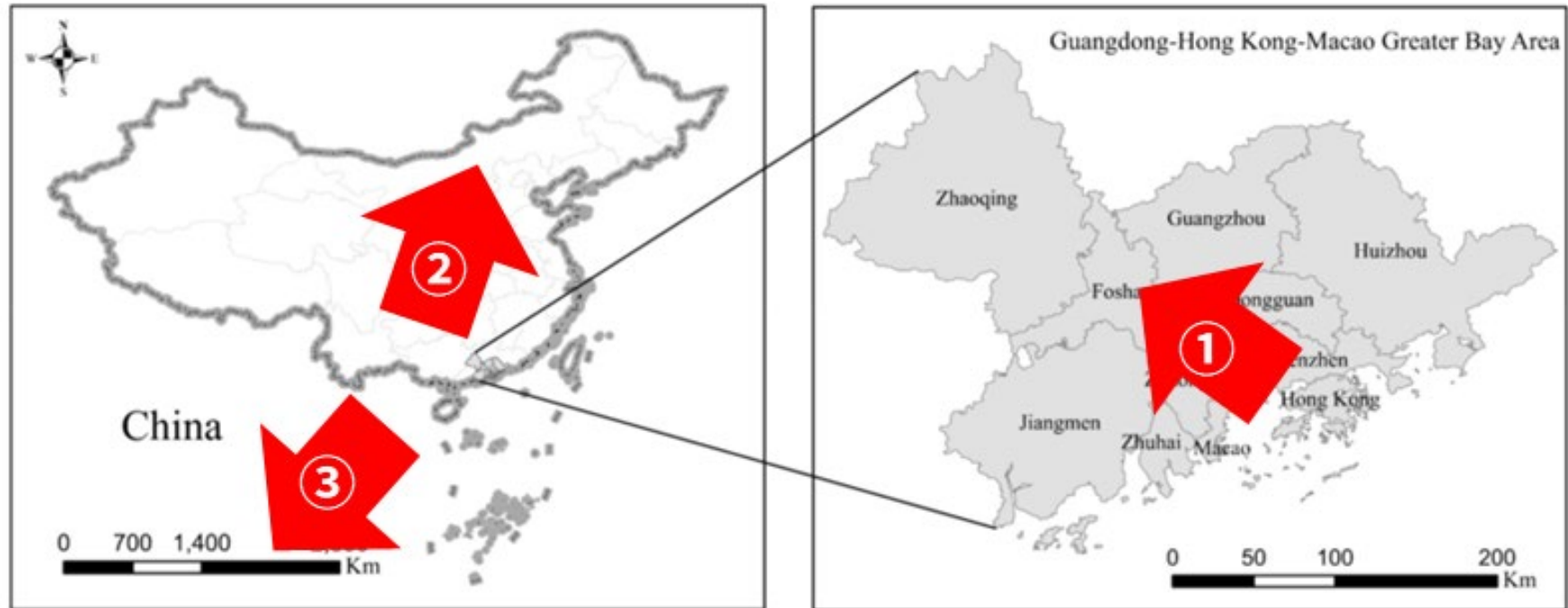
4. Challenges, gaps between expectations and reality, and difficulties encountered during overseas expansion



5. 今後の展望

5. Future Outlook

- 十分な市場ニーズはある。その上で、**既存市場に適合するビジネスモデルを見極めれば**、十分な商機があることを確認。
- There is sufficient market demand. Furthermore, **by identifying a business model that aligns with the existing market**, we can confirm that there are ample business opportunities.



- 当初は、公的施設との連携で①（香港→広東省）を中心に目標を設定。
⇒ **しかし、民間との連携で、②（中国本土）や③（他のアジア諸国）へも加速できる可能性あり。**
- Initially, the focus was on setting targets primarily for ① (HK → Guangdong) through collaboration with public institutions.
⇒ However, **through collaboration with the private sector**, there is potential to accelerate efforts towards ② (mainland China) and ③ (other Asian countries) as well.

具体的な事例

(1) 高齢者・介護施設でのケース：香港房屋協会(Housing Society)

房屋協会(Housing Society)の高齢者施設センター(Elderly Resources Centre)でのデモ→商談へ



Elderly Resources Centre(高齢者向けの体験・相談拠点)でのイベント。
参加者は約150名(60歳以上)



その場で導入まで

スタッフが1人ずつ操作を説明し、3か月の無料試用をご案内。

なぜ房屋協会なのか

1948年設立の非営利団体(NGO)。政府から土地の優遇提供を受け、高齢者向け住宅も手がける「準公的機関」。

一括で導入できる — 複数の高齢者向け住宅・施設を運営。
1法人と契約すれば一括で導入できる

政策の実行主体 — 香港は在宅・地域での介護が政策の柱。
住宅を運営する房屋協会はその担い手

現場で分かったこと

高齢者本人

画面の見やすさは高評価

支援者・家族

利用状況をリアルタイムで把握

施設管理者

既存システムとのAPI連携の要望あり

IHH Catalyst North Asia Edition

Startup Briefing Session

Group Innovation

14 August, 2026

IHH Healthcare North Asia

IHH Healthcare North Asia brings together a growing network of hospitals, clinics and ambulatory care centres across Hong Kong and Shanghai through the brands **Gleneagles Hong Kong** and **Parkway Shanghai**. In Hong Kong, our services further extend to laboratory and pharmacy operations, supporting seamless care delivery across the continuum.

As part of IHH Healthcare, a leading multinational healthcare provider with 190 facilities across 10 countries, we uphold international quality standards and leverage IHH's global expertise and scale and strategic partnerships to translate innovations and technologies into meaningful and sustainable healthcare solutions. We are committed to continuously elevating patient experience and delivering more personalised care for the communities we serve in North Asia. We also play a role in clinical research through the Gleneagles Clinical Trials Centre in Hong Kong to contribute to the advancement of healthcare. More information can be found at <https://www.ihhhealthcare.com/north-asia>.



Gleneagles Hospital Hong Kong



Parkway Shanghai Hospital

(3) その他：娯楽・趣味ビジネスからの派生（BrainUpによる運動・活動）

▼日本の場合：カラオケ等を用いた介護予防・健康づくり

東京都事業への新規採択(2026.6)



都庁総合トップ > お知らせ > 報道発表 > 2026年 > 6月
> スタートアップ社会実装促進事業 第2期募集開始 & 第1期採択決定

報道発表資料：2026年6月25日

産業労働局

スタートアップ社会実装促進事業「PoC Ground Tokyo」 令和8年度第2期募集開始 & 第1期10件採択決定！



株式会社CogSmart

脳から、社会を変えていく。
CogSmart

「楽しみ
カラオケ

©2021 CogSmart Co., Ltd.

©2021 CogSmart Co., Ltd.

▼香港の場合：ピックルボール(匹克球)等のソーシャルスポーツを用いた介護予防・健康づくり



まとめ

1. 香港での事業は、**日本事業の横展開**として進行予定
2. 日本と香港とで、超高齢社会 先進国という共通点あり
⇨ **社会保険制度や文化・商慣習等の違いの影響は大きい**
この違いをもとに、香港向けのアレンジ(UI・UXの最適化)を実行中
3. BrainSuite(脳MRIをもとにしたAI解析)の場合:
香港はMRI撮像費用が高い(約10倍の差)
 - A) 富裕層向け(特に**Longevity**、アンチエイジング、健康長寿)として展開
 - B) 一般向けには、「**スマホで簡単に海馬シミュレーション**」アプリで代替
※日本のMRIビッグデータをもとに開発
4. BrainUp(スマートウォッチ連動アプリ)の場合:
 - ① 普及しているスマートウォッチの違い、②施設の運営方法の違い
➤ **各種スマートウォッチやAPI連携など、柔軟に対応できるよう開発中**



連携の可能性があれば、幅広くお声かけいただければ幸いです

ご清聴ありがとうございました
Thank you for your kind attention.
感謝各位的聆聽
感谢您的聆听

脳から、社会を変えていく。



株式会社CogSmart(コグスマート)

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3丁目11-5
日本橋ライフサイエンスビル2 604号室

TEL: 03-6272-8000

CogSmart Asia Limited (Hong Kong Office)

Units 606-607, 6/F, Building 10W, 10 Science Park West Avenue,
Hong Kong Science Park, N.T. Hong Kong.

企業 Website

<https://www.cogsmartglobal.com/>

Contact Us

akira.higuchi@cogsmart-global.com

